

## 豪州政府の次期汎用フリゲートの共同開発・生産に向けた官民合同推進委員会 (第2回) 議事要旨

1. 日 時 令和7年4月10日(木) 1500-1600

2. 場 所 防衛省(A棟11F第1省議室)

3. 出席者

(防衛省)

増田事務次官(当時)、八木海上幕僚副長、石川防衛装備庁長官(当時)、西脇防衛装備庁長官官房審議官(当時)、今吉防衛装備庁装備官(海上担当)(当時)、坂本装備政策部長(当時)、嶺プロジェクト管理部長(当時)、佐々木総括官(海上担当)、平田海上幕僚監部防衛部長、星海上幕僚監部装備計画部長、洲桃防衛装備庁国際装備課長、西村防衛装備庁事業監理官(艦船担当)(当時)、石原事業監理官(艦船担当)付(当時)

(関係企業)

泉澤三菱重工業会長、江口同防衛・宇宙セグメント長、佐藤同シニアフェロー防衛・宇宙セグメント長代理、高松同艦艇・特殊機械事業部副事業部長、甲村同技師長、洗井防衛・宇宙システム事業本部副事業本部長 執行役員、工藤日本電気ナショナルセキュリティ営業統括部統括部長、大野日立製作所ディフェンスシステム事業部事業部長、宮崎富士通株式会社ナショナルセキュリティ事業本部本部長、本杉沖電気 執行役員 特機システム事業部長、竹野ジャパン マリンユニテッド代表取締役 専務執行役員 艦船事業本部長

(関係省庁)

小杉内閣審議官(当時)、斉田外務省総合外交政策局参事官(当時)、陣田財務省国際局総務課長(当時)、荒井経済産業省通商政策局長、今井国交省大臣官房技術審議官(海事)

4. 議事要旨

(1) 増田事務次官(当時)挨拶

- 豪州は我が国にとって、特別な戦略的パートナーである。また日米同盟に次ぐ、重要な国であることなどから、本プロジェクトは極めて重要。防衛産業とワンチームになって必ず本プロジェクトを成功させる決意。
- ご意見、ご提案があれば、忌憚なく述べていただき、本委員会が真に実りあるものとなるよう、運営していきたい。

(2) 泉澤三菱重工業会長 挨拶

- このように、官民が一緒にさせていただいてるのは、初めてのことであり大変ありがたく思っている。
- プロジェクトは生き物であり、円滑に進めていくために、豪州側との緊密なコミュニケーション、QCD (Quality, Cost, Delivery) の一元管理、建造あるいは試験における不測の事態に対するスピーディな対応が不可欠。
- プロジェクトのインテグレーションについてこれまで以上に、官側のイニシアティブの発揮をお願いしたい。
- 豪州向けFFM建造にあたっては、不測の事態もあると思料するが、そのような場合には速やかな意思決定を行うことができるよう、引き続きよくコミュニケーションを取っていきたい。
- 今後、円滑に進めていくためには、仕様及びシステム全体を掌握する官側と、製造する民側がワンチームとなって、進めていくということが必要。

(3) 事務局説明

事務局より、新たに参加いただいた委員の紹介をしたのち、現在の取組状況及び今後の進め方について報告。

(4) 意見交換

事務局から、現在の取組状況及び今後の進め方を踏まえた意見を求め、防衛省出席者、関係企業及び関係省庁から発言があった。

(5) 閉会

石川防衛装備庁長官（当時）より閉会の挨拶があった。

(以上)